



# Commvault v11 SP16

## システム要件

Version 1.0  
Sep 2019

文書番号: CVDC190022

# 目次

更新履歴.....	4
はじめに.....	5
本ドキュメントについて.....	5
免責事項について.....	5
著作権.....	5
システム要件について.....	6
1 始める前に.....	6
2 システム要件 — CommServe.....	6
オペレーティングシステム.....	6
クラスター サポート.....	6
プロセッサ.....	6
データベース エンジン.....	6
推奨される SQL サーバー設定.....	8
CIFS での CommServe データベース.....	8
その他.....	8
複合インストールの注意事項.....	9
ハードウェア要件 — CommServe.....	9
3 システム要件 — MediaAgent.....	10
オペレーティングシステム.....	10
その他.....	10
ハードウェア要件 — MediaAgent.....	10
4 システム要件 — Microsoft Windows File System Agent.....	11
オペレーティングシステム.....	11
クラスター サポート.....	11
ハードドライブ.....	11
プロセッサ.....	11
Office Communication サーバー.....	11
その他.....	11
5 システム要件 — Virtual Server Agent (VSA).....	14

プロキシコンピュータの要件(オペレーティングシステム) .....	14
VMware vCenter Server のサポート .....	14
ESX ホストのサポート .....	14
VDDK のサポート.....	14
VMware の vCloud Director .....	14
仮想マシンのハードウェア.....	14
仮想マシンのオペレーティングシステム .....	14
VMware Cloud on AWS .....	14
データストアのサポート .....	15
仮想マシン上の VMware Tools.....	15
Microsoft Visual C++.....	15
ハードウェア要件 — Virtual Server Agent .....	15
その他(参考情報).....	16

## 更新履歴

バージョン	日付	変更点
1.0	2019/09/30	初版作成

# はじめに

## 本ドキュメントについて

本ドキュメントは、Commvault V11 SP16 のサーバーモジュールをインストールするためのシステム要件について弊社ドキュメントサイトの Books Online (BOL) (<http://documentation.commvault.com>)から抜粋した資料となります。また記載内容は 2019 年 9 月 30 日時点の情報となり、変更される可能性があるため必ず弊社ドキュメントサイトをご参照ください。

本ドキュメントに記載されていない Commvault に関する詳細情報、互換性情報およびその他の情報につきましては、弊社ドキュメントサイトをご参照ください。

## 免責事項について

本ドキュメントは情報提供と便宜を目的として、現状有姿のまま提供されます。Commvault は事前の通知なしに本ドキュメントの内容を修正、変更する権利を留保します。本ドキュメントにおいて使用されている構成は架空のものであり、説明のためだけに使用されます。実在するものとは一切関係ありません。また、本ドキュメントの内容の正確性や使用に関しては Commvault は何ら保証しません。

## 著作権

© 2019 すべての著作権は Commvault Systems Japan 株式会社が所有しております。記載された会社名および製品名等は該当する各社の商標または登録商標です。

# システム要件について

CommServe、MediaAgent、Windows File System Agent、Virtual Server Agent のシステム要件について記載しています。

## 1 始める前に

インストールするコンピュータが最小要件を満たしていることを確認してください。

- ・[システム要件 — CommServe](#)
- ・[システム要件 — MediaAgent](#)
- ・[システム要件 — Windows File System Agent](#)
- ・[システム要件 — Virtual Server Agent \(VSA\)](#)

## 2 システム要件 — CommServe

### オペレーティングシステム

[http://documentation.commvault.com/commvault/v11\\_sp16/article?p=2801.htm](http://documentation.commvault.com/commvault/v11_sp16/article?p=2801.htm)

### クラスタ – サポート

上記のオペレーティング システムがクラスタリングに対応している場合は、ソフトウェアをクラスタ上にインストールすることが可能です。サポートしているクラスタ タイプについては、[クラスタリング – サポート](#)を参照してください。

### プロセッサ

すべての Windows 互換のプロセッサがサポートされています。

### データベース エンジン

コンピュータにインストールされている Microsoft SQL Server アプリケーションは、他のアプリケーションと共有することはできません。

### Microsoft SQL Server 2019 Enterprise、Standard、Express の各 Edition

Microsoft SQL Server 2019 Enterprise、Standard、および Express の各 Edition がサポートされています。Microsoft SQL Server は手動でインストールする必要があります。Microsoft SQL Server のプリインストールについては、[クラスタ化されていない環境での Microsoft SQL Server ソフトウェアのプリインストール](#)を参照してください。スケーラビリティ (CPU、ソケット、メモリの制限など)、パフォーマンス、およびその他のサポートされている機能

については、[Microsoft](#) の Web サイト、Edition および Microsoft SQL Server のサポートされている機能を参照してください。

### **Microsoft SQL Server 2017 Enterprise、Standard、Express の各 Edition**

Microsoft SQL Server 2017 Enterprise、Standard、および Express の各 Edition がサポートされています。Microsoft SQL Server は手動でインストールする必要があります。Microsoft SQL Server のプリインストールについては、[クラスタ化されていない環境での Microsoft SQL Server ソフトウェアのプリインストール](#)を参照してください。スケーラビリティ (CPU、ソケット、メモリの制限など)、パフォーマンス、およびその他のサポートされている機能については、[Microsoft](#) の Web サイト、Edition および Microsoft SQL Server のサポートされている機能を参照してください。

### **Microsoft SQL Server 2016 Standard Edition**

Microsoft SQL Server 2016 Standard Edition は、CommServe ソフトウェアのインストール中に自動的にインストールされます。後で SQL Server サービスパックとアップデートは手動でインストールする必要があります。Microsoft がリリースした重要な更新プログラムを使用して SQL Server を更新する必要があります。スケーラビリティ (CPU、ソケット、メモリの制限など)、パフォーマンス、および Standard Edition でサポートされているその他の機能については、Microsoft の Web サイト、[SQL Server 2016 の Edition でサポートされている機能](#)を参照してください。

仮想環境でセットアップした CommServe で Microsoft SQL Server 2016 を使用する場合は、ソケット数を 4、コア数を 4 に設定します。

### **Microsoft SQL Server 2016 Express Edition**

Microsoft SQL Server 2016 Express Edition は、Virtual Server Protection パッケージなどの Commvault ソリューションパッケージのインストール中に自動的にインストールされます。ソリューションパッケージの詳細については、[Commvault Data Protection Solutions - Deployment](#) を参照してください。

Microsoft SQL Server 2016 Express Edition の最大データベースサイズは 10 GB です。Express Edition のデータベースが 10 GB の制限に近づくと、重大なイベントがイベントビューアに表示されます。データベースのサイズを増やすには、Microsoft SQL Server 2016 Standard Edition にアップグレードします。データベースのアップグレードについては、[Microsoft SQL Server Express から Microsoft SQL Server 2016 Standard Edition へのアップグレード](#)を参照してください。

### **Microsoft SQL Server 2014 Standard Edition**

Microsoft SQL Server 2014 Standard Edition がサポートされており Microsoft SQL Server は手動でインストールする必要があります。スケーラビリティ (CPU、ソケット、メモリの制限など)、パフォーマンス、およびその他のサポートされている機能については、[Microsoft](#) の Web サイト、Edition および Microsoft SQL Server のサポートされている機能を参照してください。

仮想環境でセットアップした CommServe で Microsoft SQL Server 2014 を使用する場合は、ソケット数を 4、コア数を 4 に設定します。

## Microsoft SQL Server 2012 Enterprise Edition

Microsoft SQL Server 2012 Enterprise Edition (Service Pack 2 (SP2) および Cumulative Update 4 (CU4)) もサポートされています。SQL Server 2012 を使用する予定の場合は、[SQL Server 2012 に関する考慮事項](#)に記載されている重要な推奨事項を確認してください。

## 推奨される SQL サーバー設定

ソフトウェアが使用するデータベース インスタンスには、特定の SQL サーバー設定が必要です。

SQL Management Studio を使用して、以下の SQL プロパティを確認してください。

### SQL メモリサイズ

サーバーのプロパティにアクセスして、[メモリ]ページに移動します。最大サーバー メモリは、ソフトウェアがインストールされているコンピュータで利用可能な物理メモリの 50% でなければなりません。

### サービス アカウント

サービス アカウントの場合は、各サービスに同じローカル システム アカウントを使用し、SQL サービスの自動起動を有効にします。

クラスタ環境では、管理者権限を持つアカウント (コンピュータまたはドメインの Administrator ローカルグループのメンバーなど) を使用してください。

## CIFS での CommServe データベース

CommServe SQL データベースは、CIFS 共有ではサポートされていません。

## その他

### Internet Explorer

Microsoft Internet Explorer (IE) 11.0

### .NET Framework

Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 と 4.5 は、自動的にインストールされます。



## インターネット インフォメーション サービス (IIS)

デフォルトでは、CommServe と共に Web サーバーや Web コンソールのパッケージがインストールされます。このソフトウェアをインストールするには、CommServe コンピュータで IIS を有効にして、以下の要件を満たす必要があります。

Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ 10.0 (Windows 20016)

Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ 8 または 8.5 (Windows 2012 のみ)

Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ 7.5

## CommServe 名称

CommServe の名称としてサーバー コンピュータ 名 (CommServe コンポーネントをインストールする) を使います。また、CommServe コンポーネントのインストールにおいて、ユーザーが別の CommServe 名を指定することも可能です。CommServe 名には、"commcell" という文言を使用することはできません。したがって、インストール中に別の CommServe 名を指定する場合は、"commcell" という文言を含まないように注意してください。

## Java SE Environment

Java 11 をサポートしています

## 複合インストールの注意事項

1 台のコンピュータに複数の Commvault パッケージをインストールするのが一般的な方法です。たとえば、コンピュータに Exchange データベースと Oracle データベースがある場合、Exchange データベース エージェントと Oracle エージェントをインストールして、両方のデータベースからデータを保護します。

単一のコンピュータで複数の機能を組み合わせる場合、そのコンピュータのソフトウェアをサポートするために必要なストレージリソースは、本質的に累積的ではありません。これは、Commvault パッケージが同じソフトウェアの一部を共有しているためです。その結果、複合インストールでは、ソフトウェアが個別のコンピュータに存在するインストールよりも約 30 MB 少ないディスク容量になります。

## ハードウェア要件 — CommServe

物理コンピュータまたは仮想マシンのいずれかでのハードウェア要件です。

[http://documentation.commvault.com/commvault/v11\\_sp16/article?p=1645.htm](http://documentation.commvault.com/commvault/v11_sp16/article?p=1645.htm)

## 3 システム要件 — MediaAgent

### オペレーティングシステム

[http://documentation.commvault.com/commvault/v11\\_sp16/article?p=2822.htm](http://documentation.commvault.com/commvault/v11_sp16/article?p=2822.htm)

#### 注意

・ソフトウェアのインストールには、オペレーティング システム ドライブに 20 GB のディスク空き容量を必要とします。この領域は、MediaAgent ソフトウェアのインストールまたはアップグレード中にコピーされた一時ファイルを保存するために使用されます。

・MediaAgent ソフトウェアとログファイルの増加のために 10 GB 必要です。

### その他

#### Microsoft Visual C++

以下の再頒布可能パッケージが自動的にインストールされます。再頒布可能パッケージは、このソフトウェアの他のバージョンと共存できることに注意してください。

・Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ

#### クラウドサーバーのサポート

MediaAgent は、クラウド上の仮想サーバーにインストール可能です。例えば、Amazon EC2 の 仮想サーバー など。インストール後に、リモート クライアントがこの MediaAgent にアクセスできることを確認してください。

#### .NET Framework

.NET Framework の 4.5 が自動的にインストールされます。.NET Framework の 4.5 は、このソフトウェアの他のバージョンと共存できることに注意してください。

#### ハードウェア互換性リスト

テープハードウェア/ドライバのサポートに関する情報については、[ハードウェアのマトリックス](#)を参照してください。

### ハードウェア要件 — MediaAgent

物理コンピュータまたは仮想マシンのいずれかでのハードウェア要件です。

[http://documentation.commvault.com/commvault/v11\\_sp16/article?p=1647.htm](http://documentation.commvault.com/commvault/v11_sp16/article?p=1647.htm)

## 4 システム要件 — Microsoft Windows File System Agent

### オペレーティングシステム

[http://documentation.commvault.com/commvault/v11\\_sp16/article?p=3011\\_1.htm](http://documentation.commvault.com/commvault/v11_sp16/article?p=3011_1.htm)

### クラスタ – サポート

上記のオペレーティング システムがクラスタリングに対応している場合は、ソフトウェアをクラスタ上にインストールすることが可能です。サポートしているクラスタ タイプについては、[クラスタリング – サポート](#)を参照してください。

### ハードドライブ

ソフトウェアのインストールには、最低 1 GB のハードディスク空き容量が必要です。

ログ ディレクトリには、500 MB のディスク空き容量が必要です。

### プロセッサ

すべての Windows 互換のプロセッサがサポートされています。

### Office Communication サーバー

- Lync Server 2013
- Lync Server 2010
- Office Communication Server 2007R2
- Office Communication Server 2007
- Live Communications Server 2005

### その他

#### .NET Framework

.NET Framework の 4.0 が自動的にインストールされます。.NET Framework の 4.0 は、このソフトウェアの他のバージョンと共存できることに注意してください。

#### Microsoft Visual C++

以下の再頒布可能パッケージが自動的にインストールされています。パッケージの複数のバージョンを同じコンピュータにインストールすることができます。

- Microsoft Visual C ++ 2017 再頒布可能パッケージ

Windows 2008 R2 コンピューターの場合、最低 Service Pack 1 を使用します

- ・Microsoft Visual C ++ 2013 再頒布可能パッケージ
- ・Microsoft Visual C ++ 2010 再頒布可能パッケージ

### **Microsoft Visual C ++再頒布可能 2017 が自動的にインストールされます**

最新の Windows の更新プログラムがない場合は、Microsoft の Visual C ++再頒布可能パッケージ 2017 のインストールが失敗します。

次の Windows の更新プログラムをインストールする必要があります。

KB2919355

KB2939087

KB2975061

KB2999226

Microsoft Windows 10 および Microsoft Windows Server の 2016 には、ユニバーサル C ランタイムがすでにインストールされているため、基本的な VC2017 / 2013 / 2010 再配布可能インストールのみが必要です。

### **Windows Server 2000 のクライアントのサポート**

CommVault V11 のソフトウェアは、Windows Server 2000 をサポートしません。Windows Server 2000 コンピュータのファイルシステムデータを保護する場合は、Commvault V9 ソフトウェアをインストールする必要があります。V9 クライアントをインストールするには、[V11 CommCell 環境への V9 Windows Server 2000 クライアントのインストール](#)を参照してください。

### **サポートされているファイルシステム**

- ・ファイルアロケーションテーブル (FAT) ファイルシステム
- ・暗号化ファイルシステム (EFS) を含む新技術ファイルシステム (NTFS)
- ・トランザクションファイルシステム
- ・分散ファイルシステム (DFS) データ
- ・Oracle ASM のクラスタ・ファイル・システム (Oracle ACFS)
- ・Windows Server 2012、Windows Server 2016、Windows Server 2019 のコンピューターの復元ファイルシステム (ReFS)
- ・Nutanix Files (旧 Nutanix Acropolis File Services)

## **Windows Storage Server のサポート**

Windows のストレージサーバーがサポートされています。

## **サポートされているディスク**

Microsoft Azure Ultra SSD ディスクがサポートされています。

## 5 システム要件 — Virtual Server Agent (VSA)

### プロキシコンピュータの要件(オペレーティングシステム)

[http://documentation.commvault.com/commvault/v11\\_sp16/article?p=3368.htm](http://documentation.commvault.com/commvault/v11_sp16/article?p=3368.htm)

### VMware vCenter Server のサポート

VMware vCenter Server 4.1~6.7 Update 2

### ESX ホストのサポート

ESXi サーバーのバックアップを設定する前に、Essentials のライセンス レベル以上を使用していることを確認してください。データ保護 (VADP)用の vStorage API は、ESXi の無償版では提供されていません。

### VDDK のサポート

仮想サーバーのエージェントがサポートされている最新の VDDK を含んでいます。

VDDK 6.0.2、VDDK 6.5、VDDK 6.5.2、および VDDK 6.7.1 の場合は、すべての仮想サーバーのエージェントに含まれています。必要な時に vSphere のバージョンに適した VDDK が自動的にロードされます。詳細については、[仮想サーバーのエージェントの VDDK サポート](#)を参照してください。

### VMware の vCloud Director

vCloud Director 5.1.X、5.5.X、8.0、8.1、8.2、9.0、9.1、9.5、9.7

### 仮想マシンのハードウェア

バージョン 4.0、7.0、8.0、9.0、10.0、11.0、13.0、14.0、15.0

### 仮想マシンのオペレーティングシステム

VADP でサポートされているすべてのゲストオペレーティングシステム。

### VMware Cloud on AWS

VMware Cloud on AWS をサポートしています。

詳細については、[VMware Cloud on AWS のサポート](#)を参照してください。

## データストアのサポート

- ・ネットワークファイルシステム (NFS)
- ・仮想マシンファイルシステム (VMFS)
- ・仮想ストレージ・エリア・ネットワーク (VSAN)
- ・VMware 仮想ボリューム (VVOL)

## 仮想マシン上の VMware Tools

ホストでサポートされている最新バージョンの VMware Tools は、各仮想マシンにインストールする必要があります。最低でも、仮想マシンに VMware Tools のバージョンがホスト上でサポートする必要があります。サポートされていないバージョンをアップグレードする必要があります。Windows および Linux ゲスト VM 用の VMware Tools のサポートの詳細については、[VMware 互換性ガイド](#)を参照してください。

## Microsoft Visual C++

以下の再頒布可能パッケージが自動的にインストールされます。再頒布可能パッケージは、このソフトウェアの他のバージョンと共存することができます。

- ・Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ

## ハードウェア要件 — Virtual Server Agent

物理コンピュータまたは仮想マシンのいずれかでのハードウェア要件です。

[http://documentation.commvault.com/commvault/v11\\_sp16/article?p=1661.htm](http://documentation.commvault.com/commvault/v11_sp16/article?p=1661.htm)

## その他(参考情報)

マニュアル : Books Online(BOL)

[http://documentation.commvault.com/commvault/v11\\_sp16/article](http://documentation.commvault.com/commvault/v11_sp16/article)

用語集

<https://www.commvault.co.jp/products/glossary/>

Commvault 技術ブログ

[https://www.commvault.co.jp/products/serial-article/technical\\_blog/](https://www.commvault.co.jp/products/serial-article/technical_blog/)





Commvault Systems Japan 株式会社

〒141-6008 東京都品川区大崎 2-1-1 ThinkPark Tower 8F

<https://www.commvault.co.jp>